

MEJ 4070

外 来 語 の 表 記

資 料 集

国語シリーズ 27

文 部 省

刊 行 の 趣 旨

国語シリーズは、国語の改善と国語教育の振興に関する施策を普及徹底するために編集するものであります。

このシリーズは、国語問題編、国語教育編、国語生活編、国語教養編および資料編に分け、問題編は主として国語審議会が発表した事からを、教育編は国語学習指導の方法などを、生活編は国民の言語生活に関する事からを解説するものであり、教養編は一般の国語教養を高めることを、資料編は国語の改善と国語教育の振興に関する基礎的資料を集録することを目的としたものであります。

すでに、問題編は7冊、教育編は6冊、生活編、教養編はともに5冊、資料編は3冊を刊行しましたが、各編にわたって追々に刊行する予定であります。

この本は、資料編の第4冊目として、昭和29年3月第20回国語審議会総会において審議された術語表記合同部会の報告を、その審議経過の議事録とともに載せたものであります。この報告は、国語審議会の決定までにはいたりませんでした。その趣意がひろく社会に普及し一般に実行されることが望ましいとされたものでありますので、外来語表記解決の一資料として刊行した次第であります。なお、付録として昭和21年3月文部省発表の「外国の地名・人名の書き方(案)」を収めました。

昭和30年2月

文部省調査局国語課長 白石大二

目 次

外来語の表記（第20回国語審議会総会 術語表記合同部会報告）……………	1
ま え が き……………	3
外来語表記の原則……………	5
外来語を書くときに用いるかな と符号の表……………	10
外来語用例集……………	12
外来語の表記について（関係資料）……………	31
第20回国語審議会総会議事録抄……………	33
外来語の表記について（国語審議会発表）……………	40
国語審議会名簿……………	41
〔付録〕 外国の地名・人名の 書き方（案）……………	45

外 来 語 の 表 記

(術語表記合同部会報告)

この報告は、国語審議会の決定までにはいたっていない。(注記)
とことわった部分は、文部省調査局国語課でこのシリーズをまとめる際、国語審議会議事録の要領をとって書き加えたものである。

まえがき

ここにいう外来語とは、主として欧米語から国語に取り入れられたことばをさす。

外来語の中には、次の三つの種類がある。

- (1) その使われ始めた歴史が古く、国語に融合しきっていて、国民一般がこれを外来語とは感じないもの、たとえば、たばこ・かっぱ・きせる など。
- (2) 外国語という感じをなお多分にとどめているもの、たとえば、オーソリティー・フィアンセ など。
- (3) すでに国語として熟しているが、なお外来語という感じは残っているもの、たとえば、オーバー・ラジオ など。

従来行われている外来語の書き表わし方は、この3種の別に応じて違いがあり、(1)の類は、その書き表わし方に一定の慣用ができており、(2)の類は、なお原語のつづり、または発音に近い書き表わし方を採っている。これに反し、(3)の類は、原語のつづり、または音から離れて、その一部分を国語化して書き表わすものが多い。さらに(2)の類に関しては、それを外国語と認めるか、またはすでに外来語として国語の中に取り入れられたと認めてよいか、その判定に苦しむものが多い。

このように、外来語は、その範囲の認定の点からも、またその書き表わし方の上からも、種々の問題を含み、今ただちにこれを整理統一することは必ずしも容易ではないが、上に述べた外来語の3種の別に応じてられるよう、

- (イ) 国語化した書き表わし方の慣用が固定しているものは、これを探る。
- (ロ) その書き表わし方の慣用が固定せず、二様にわたるものにつ

いては、原語の発音としてわれわれが聞き取る音を基準とし、国民一般に行われやすいことを眼目として、なるべく平易なほうを採る。

を方針とし、原則19項を定め、かつ「外来語用例集」を付けた。原則19項は外来語をかなで書き表わす場合の大綱を示し、「外来語用例集」は、その書き表わし方の迷いやすいものについて、その実際を示したものである。

なお、外国の地名・人名の書き方については、別に考慮することにした。

外来語表記の原則

1. 外来語は、原則としてかたかなで書き、別表「外来語を書くときに用いるかなと符号の表」の範囲内で書く。

2. 慣用の固定しているものは、これに従う。

リュックサック (Rucksack)

ケーキ (cake)

3. はねる音は、「ン」と書く。

テンポ (tempo) トランク (trunk)

4. つまる音は、小さく「ッ」を書き添えて示す。

コップ (kop) カット (cut)

5. 従来、原語のつづりに引かれて、「ン」(はねる音)「ッ」(つまる音)を添えて書き表わしたものは、「ン」「ッ」を使わない。

コミュニケ (コン[×]ミュニケ) (communiqué)

コピー (コッ[×]ピー) (copy)

アコーディオン (アッ[×]コーディオン) (accordion)

アクセサリー (アクセッ[×]サリー) (accessary)

キス (キッ[×]ス) (kiss)

〔例外〕 シャッター (shutter) バッター (batter)

 バッテリー (battery) カutting (cutting)

6. よう音は、小さく「ヤ」「ユ」「ヨ」を書き添えて示す。

ジャズ (jazz) シュークリーム (chou à la crème)

チョーク (chalk)

7. 長音を示すには、長音符号「ー」を添えて示し、母音字を重ねたり、「ウ」を用いたりしない。

ボール (ball) オートバイ (auto-bicycle)

なお、原音における二重母音の「エイ」「オウ」は長音とみな

す。

ショー (show) メーデー (May-Day)

〔例外〕 エイト (eight) ペイント (paint)

8. イ列・エ列の音の次の「ア」の音は、「ヤ」と書かずに「ア」と書く。

ピアノ (piano) ヘアピン (hair-pin)

〔例外〕 ダイヤ (diamond, diagram)

タイヤ (tire, tyre) ベニヤ板 (veneer)

ワイヤ (wire)

9. 原音における「トゥ」「ドゥ」の音は、「ト」「ド」と書く。

ゼントルマン (gentleman)

ブレイントラスト (brain trust)

ドライブ (drive) ドラマ (drama)

〔例外〕 ツーピース (two piece) ツリー (tree)

ズック (doek) ズロース (drawers)

10. 原音における「ファ」「フィ」「フェ」「フォ」・「ヴァ」「ヴィ」「ヴ」「ヴェ」「ヴォ」の音は、なるべく「ハ」「ヒ」「ヘ」「ホ」・「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」と書く。

プラットホーム (platform)

ホルマリン (Formalin) バイオリン (violin)

ビタミン (Vitamin) ベランダ (veranda)

ただし、原音の意識がなお残っているものは、「ファ」「フィ」「フェ」「フォ」・「ヴァ」「ヴィ」「ヴ」「ヴェ」「ヴォ」と書いてもよい。

ファインプレー (fine-play)

フェミニスト (feminist) ヴェール (veil)

ヴォキャブラリー (vocabulary)

(注記) 国語審議会総会において、この条項について、たとえば「フェルト」か「フェルト」か、「フィルム」か「ファイルム」か

をめぐって、(1) 外来語の発音の事実をどう認めるか、(2) その事実をどうかなで書き表わすか、(3) その発音なり表記なりを決定するとき現実どおりにするか将来を考えるか、(4) その考え方にも簡易化のほうに向かって考えるか、日本語の音を豊富にするほうに向かって考えるかについて論議された。

11. 原音における「ティ」「ディ」の音は、なるべく「チ」「ジ」と書く。

チーム (team) チンキ (tinc [tuur])

ラジオ (radio) ジレンマ (dilemma)

ただし、原音の意識がなお残っているものは、「ティ」「ディ」と書いてもよい。

ティー (tea) ビルディング (building)

12. 原音における「シェ」「ジェ」の音は、なるべく「セ」「ゼ」と書く。

セパード (shepherd) ミルクセーキ (milk-shake)

ゼスチュア (gesture) ゼリー (jelly)

ただし、原音の意識がなお残っているものは、「シェ」「ジェ」と書いてもよい。

シェード (shade)

ジェットエンジン (jet engine)

ページェント (pageant)

(注記) 国語審議会総会において原音における「シェ」「ジェ」の音を、なるべく「セ」「ゼ」と書くことについて論議があった。

「シェ」「ジェ」は日本人に可能な音であるので、むしろ「シェ」「ジェ」と書くほうを本体とすべきでないかというのである。

13. 原音における「ウィ」「ウェ」「ウォ」の音は、なるべく「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書く。

ウイスキー (whisky) ウェーブ (wave)

ストップウォッチ (stop-watch)

ただし、「ウ」を落す慣用のあるものは、これに従う。

サンドイッチ (sandwich) スイッチ (switch)

(注記) 国語審議会総会において、原音における「ウィ」「ウェ」「ウォ」の音をなるべく「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書くことについて、(1) 原音をいかに取り入れるか、「ウィ」「ウェ」「ウォ」でとり入れていいのではないか、(2) 「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書き表わすときには、「ウ」と「イ」「エ」「オ」との発音をどうするのかという点が論議された。

14. 原音における「クァ」「クィ」「クェ」「クォ」の音は、なるべく「カ」「クイ」「クエ」「コ」と書く。

レモンスカッシ (lemon-squash) クイズ (quiz)

スクエア (square) イコール (equal)

ただし、原音の意識がなお残っているものは、「クァ」「クィ」「クェ」「クォ」と書いてもよい。

スリークォーター (three quarter)

クォーターリー (quarterly)

15. Xを「クサ」「クシ」「クス」「クソ」と発音する場合は、「キサ」「キシ」「キス」「キソ」と書かないで、なるべく「クサ」「クシ」「クス」「クソ」と書く。

タクシー (taxi) ボクシング (boxing)

〔例外〕 エキストラ (エキストラ) (extra)

エキス (エキス) (extract)

テキスト (テキスト) (text)

タキシード (tuxedo)

16. 原語 (特に英語) のつづりの終りの—er, —or, —arなどをかながきにする場合には、長音符号「ー」を用いる。

ライター (lighter) エレベーター (elevator)

ただし、これを省く慣用のあるものは必ずしもつけなくてもよい。

ハンマ (hammer) スリッパ (slipper)

ドア (door)

17. 語末 (特に元素名等) の—um は「ウム」と書く。

アルミニウム (aluminium) ラジウム (radium)

〔例外〕 アルバム (album) スタジアム (stadium)

18. 原音における「テュ」「デュ」の音は、「チュ」「ジュ」と書く。

スチュワード[×]ス (ステュワード[×]ス) (stewardess)

チューブ[×] (テューブ[×]) (tube)

ジュース (deuce) (スポーツ)

ジュラルミン (デュラルミン[×]) (duralumin)

〔例外〕 プロデューサー (producer)

19. 原音における「フュ」「ヴュ」の音は、「ヒュ」「ビュ」と書く。

ヒューズ (フューズ[×]) (fuse)

レビュー (レヴュー[×]) (revue)

インタビュー (インタヴュー[×]) (interview)

〔注〕 外来語を書き表わす場合には、「キ」「エ」「ヲ」「ヅ」「ヂ」は使わない。

(注記) 国語審議会総会において論議されたように、原語で二つ以上のことばがいっしょになったもののつなぎの符号については、ここでは決めていない。この符号には、従来、「オール・ウエーブ」のように「・」(なかくてん)を付したり、また「オール-ウエーブ」、「オール=ウエーブ」のようにハイフンを用いたり、種々の方法がとられている。この決定は、いろいろの場合を考えなければならないので、留保した。たとえば、なかくてんについては、「東京・京都」のように、同じ種類のことばをいくつか並べられる場合に用いており、これとまぎらわしい場合がある。

外来語を書くときに用いるかなと符号の表

〔注〕 () 印は一般の外来語にはあまり使われない。

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ		ユ		ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ				
ン				
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ダ			デ	ド
バ	ビ	ブ	ベ	ボ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
キャ		キュ		キョ
シャ		シュ		ショ
チャ		チュ		チョ

(ニャ)		ニユ		(ニョ)
(ヒャ)		ヒユ		(ヒョ)
(ミャ)		ミユ		(ミョ)
(リャ)		リュ		(リョ)
ギャ		ギユ		(ギョ)
ジャ		ジュ		ジョ
ビャ		ビユ		ビョ
ピャ		ピユ		ピョ
	ウイ		ウエ	ウオ
クァ				
			シェ	
			チェ	
(ツァ)			(ツェ)	(ツォ)
	テイ			
ファ	フィ		フェ	フォ
グァ				
			ジェ	
	ディ	デュ		
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
ン (はねる音)		ー		
ツ (つまる音)				
ー (長音符)				

(注記) 国語審会総会で、この表が発音を明示していないことが論議された。

外 来 語 用 例 集

- 〔注意〕 1 ここには、書き表わし方の迷いやすい例をあげるにとどめた。
- 2 ここには、外来語として一般に普及するまでになっていないものもあるが、便宜あげておいた。
- 3 数字は、原則の番号を示す（主要な箇所のみ）。
- 4 △印は専門用語（使用される分野の狭いもの）を示す。

（注記） 1 国語審議会委員小林英夫氏の厚意によって、原語の出所のだいたいを示した。Eは英語，Dはドイツ語，Fはフランス語，Nはオランダ語，Rはロシア語，Iはイタリア語の略語である。>によって、その出所間の由来を示した。F>Eは、国語には英語からきたが、その英語はフランス語に由来することを示す。

2 国語審議会総会において論議されたように、この表では、原語で二つ以上のことばがいっしょになったもののつなぎは明らかにしていない。

用	語		備 考	
【ア】				
	アーケード	(arcade E)	7	
△	アーティスト	(artist E)	11	
	アイシャドー	(eye-shadow E)	7	アイシャドウ [×] と書かない。
	アイスクャンデー	(ice-candy E)	2	
△	アヴァンギャルド	(avant-garde F)	10	
△	アヴァンゲール	(avant-guerre F)	10	
	アカデミー	(academy E)	7	アカデミイ [×] と書かない。
	アクセサリー	(accessary E)	5	
△	アクチブ	(aktiv R)	11・10	ロシア語。
	アコーディオン	(accordion E)	5・11	
△	アストリンゼント	(astringent E)	12	
	アスファルト	(asphalt E)	10	
△	アチーブ (メントテスト)	(achieve[ment test] E)	10	
	アットホーム	(at home E)	4	
	アププリケ	(appliqué F)	4	
	アナウンサー	(announcer E)	16	
	アベック	(avec F)	10	
	アルファベット	(alphabet E)	10	
	アルミニウム	(Aluminium D)	17	
	アンケート	(enquête F)	17	
【イ】				
△	イコール	(equal E)	14	
△	イディオム	(idiom E)	11	

イニシアチブ	(initiative E)	8・11・10	
イニシアル	(initial E)	8	
イブニングドレス	(evening-dress E)	10	
イヤホン	(earphone E)	8・10例外	
イリジウム	(Iridium D)	17	
インタビュー	(interview E)	19	
インテリゲンチア	(intelligenza R)	8	
△インファイト	(infight E)	10	
インフレーション	(inflation E)	7	
【ウ】			
ヴァージン	(virgin E)	10	
△ヴァルール	(valeur F)	10	
ウイークエンド	(week-end E)	13・7	
ウイークデー	(week-day E)	13・7	
ウイークポイント	(weak point E)	13	
ウイスキー	(whisky E)	13	× ウキスキーと 書かない。
ウイット	(wit E)	13	
△ウイニング (ショット)	(winning [shot] E)	13	
ウインク	(wink E)	13	
ウインタースポーツ	(winter-sports E)	13・16	
ウインチ	(winch E)	13	
ウインドー	(window E)	13・7	× ウインドウと 書かない。
△ウエート	(weight E)	13・7	
ウエーブ	(wave E)	13・7・10	
ヴェール	(veil E)	10・7	
ウエスト	(waist E)	13	

△ウエスト (ボール) (waste[ball] E)	13	
ウエハー (ス) (wafer[s] E)	13・10	
△ウエルター (welter E)	13・16	
ウオータシュート (water-shoot E)	13・16	
△ウオーミングアップ (warming up E)	13	
△ヴォキャブラリー (vocabulary E)	10	
ウオツカ (vodka R)	13・9例外	× ウオツカと書 かない。
ウラニウム (Uranium D)	17	
【エ】		
△エアブレーキ (air-brake E)	8・2	
△エイト (eight E)	7 例外	
エープリルフール (April fool E)	7	
エクス (extract N)	15例外	
エクス (線) (X-rays E)	5	
エキストラ (extra E)	15例外	
エキスパート (expert E)	15例外	
エキゾチック (exotic E)	15・11 例 外	
エスカレーター (escalator E)	7・16	
エチケット (étiquette E)	11	
△エチュード (étude F)	18	
エネルギー (Energie D)	7	
エレベーター (elevator E)	10・7・16	
エロチック (erotic E)	11	
エンゼル (angel E)	12	
【オ】		
オーソリティー (authority E)	11	

オーバー	(over coat E)	10	
△オールウェーブ	(all-wave E)	13・7・10	
△オクターブ	(Oktav D)	2	
オフィス	(office E)	10	
オブザーバー	(observer E)	10・16	
オリーブ	(olive E)	10	
オレンジ	(orange E)	注	× オレンジと書かない。
【カ】			
カーディガン	(cardigan E)	11	
カーニバル	(carnival E)	10	
カーブ	(curve E)	10	
カクテル	(cocktail E)		× コクテールと書かない。
△カッティング	(cutting E)	例外・11	
カバー	(cover E)	10・16	
カフェー	(café F>E)	10	
カルシウム	(Calcium D)	17	
キャンバス	(canvas E)	10	
【キ】			
ギア	(gear E)	8	
キス	(kiss E)	5	
キャスティングボート	(casting vote E)	11・7	
△キャデー	(caddy E)	2	× キャデイと書かない。
ギャバジン	(gaberdine E)	11	
キャバレー	(cabaret F>E)	7	× キャバレエと書かない。
ギャラ(ンティー)	(guara[ntee] E)	11	
キャンデー	(candy E)	2	× キャンデイと書かない。

【ク】		
クイズ	(quiz E)	14
クイーン	(queen E)	14
クーデター	(coup d'état F>E)	7
クーポン	(coupon F>E)	7
△クエーカー	(Quaker E)	14・7・16
グラビア	(gravure E)	2・8
クリスマスイブ	(Christmas-eve E)	10
クリスマスツリー	(Christmas-tree E)	9例外
グループ	(group E)	7
クレープ	(crêpe F>E)	7
グレープジュース	(grape juice E)	7
△クレジット	(credit E)	11
クレヨン	(crayon E)	
グローブ	(glove E)	10
クロロホルム	(Chloroform D)	10
【ケ】		
ケープ	(cape E)	7
ケーブルカー	(cable-car E)	7
ゲーム	(game E)	7
【コ】		
コート	(coat E)	7
コーヒー	(koffij N)	2
コールタール	(coal-tar E)	7
コーンビーフ	(corned-beef E)	7

×
クレオンと書
かない。

コピー	(copy E)	5	
コミッション	(commission E)	5	
コミュニケ	(communiqué F>E)	5	
コミュニケーション	(communication E)	5・7	
コミュニスト	(communist E)	5	
コメディ	(comedy E)	11	
コロシウム	(colosseum E)	17	
コンクール	(concours F)	7	
コント	(conte F)	3	
コンパクト	(compact E)	3	× コムパクトと書かない。
コンパス	(kompas N)	3	× コムパスと書かない。
コンビネーション	(combination E)	3・7	× コムビネーションと書かない。
コンベヤー	(conveyer E)	10・8 例外16	× コムポジションと書かない。
△コンポジション	(composition E)	3	
コンマ	(comma E)	5例外	
【 サ 】			
サービス	(service E)	10	
△サーブ	(serve E)	10	
サイホン	(siphon E)	10	
サクソフォーン	(saxophone E)	15・10	
サナトリウム	(Sanatorium D)	17	
サファイア	(sapphire E)	10・8	
サルベージ	(salvage E)	10	× サルベージと書かない。

サンドイッチ	(sandwich E)	13	
【 シ 】			
ジアスターゼ	(Diastase D)	11・8	× デアスターゼ と書かない。
シェード	(shade E)	12・1	
ジェットエンジン	(jet engine E)	12	
ジステンパー	(distemper E)	11・3・16	
ジストマ	(Distoma D)	11	× シークと書か ない。
シック	(chic F)		
ジフテリア	(Diphtheria D)	11・8	
シャッター	(shutter E)	5例外	
シャベル	(shovel E)	10	
シュークリーム	(chou à la crème F)	6	× デューズと書 かない。
ジュース	(juice E)	7	
△ジュース	(deuce E)	18	
ジュラルミン	(duralumin E)	18	× ショウと書か ない。
ショー	(show E)	7	× ショウウイン ドゥと書かな い。
ショーウィンドー	(show-window E)	7・13・7	× デレンマと書 かない。
ジレンマ	(dilemma E)	11・5例外	
△シンジケート	(syndicate E)	11	× シムフォニー と書かない。
△シンフォニー	(symphony E)	3・10	× シムポジウム と書かない。
△シンポジウム	(symposium E)	3・17	
【 ス 】			
スイートホーム	(sweet home E)	13・7	

スイッチ	(switch E)	13	
△スイング	(swing E)	13	
スーツ ケース	(suit-case E)	7	
スエード	(suède F>E)	13	
スカッシ	(squash E)	14	
△スクイズ(プレー)	(squeeze[play]E)	14	
スクエア(ダンス)	(square[dance]E)	14・8	
スケール	(scale E)	7	
スコール	(squall E)	14	
スタジアム	(stadium E)	2・11・17	
スタジオ	(studio E)	2・11	
スチーム	(steam E)	11	
スチール	(still E)	11・2	
スチュワーデス	(stewardess E)	18	
ズック	(doek N)	注	× ズックと書かない。
△スティック	(stick E)	11	(スポーツ用具)
ステージ	(stage E)	7・注	× ステージと書かない。
ステートメント	(statement E)	7	× ステンドグラスと書かない。
ステンドグラス	(stained glass E)	2	× ステンレスと書かない。
ステンレス	(stainless steel E)	2	
ストーブ	(stove E)	7・10	
ストップ ウォッチ	(stop-watch E)	13	
スプーン	(spoon E)	7	
スペース	(space E)	7	
△スリークォーター	(three quarter E)	14	
スリーブ	(sleeve E)	10	
スリッパ	(slippers E)	16	

スレート	(slate E)	7	
ズロース	(drawers E)	9	
【セ】			
セーター	(sweater E)	2・16	
セーラー(服)	(sailor E)	7・16	
ゼスチュア	(gesture E)	12	
セツルメント	(settlement E)	5・9	
ゼネラル ストライキ	(general strike E)	12・2	
ゼネレーション	(generation E)	12・7	
セパード	(shepherd E)	12	
△セブン	(seven E)	10	
ゼラチン	(gelatin E)	12・11	
ゼリー	(jelly E)	12	× ゼリイと書かない。
セロハン	(cellophane E)	10	
ゼントルマン	(gentleman E)	12・9	
【ソ】			
ソーセージ	(sausage E)	注	× ソーセージと書かない。
ソファー	(sofa E)	10	
【タ】			
△ダイビング	(diving E)	10	
タイヤ	(tire E)	8例外	
ダイヤ	(dia[mond] E)	8例外	
	(dia[gram] E)		
ダイヤル	(dial E)	8例外	

タキシード	(tuxedo E)	12例外	
タクシー	(taxi E)	15	
△ダブル スチール	(double-steal E)	11	
ダンディー	(dandy E)		× ダンデーと書かない。
【 チ 】			
チーム	(team E)	11	
チケット	(ticket E)	11	
チック	(〔cosme〕tic E)	11	
チップ	(tip E)	11	
チフス	(Typhus D)	11	
チューブ	(tube E)	18	
チンキ	(tinc〔tuur〕 N)	11	
【 ツ 】			
ツーピース	(two piece E)	9例外	
ツーリスト	(tourist E)	9例外	
ツベルクリン	(Tuberkulin D)	9例外	
ツンドラ	(tundra R>E)	9例外	
【 テ 】			
ティー	(tea E)	11	
ディーゼル エンジン	(Diesel engin E)	11	× ディーゼル エンジンと書かない。
ディスカッション	(discussion E)	11	
ディレッタント	(dilettante F>E)	11	
テキスト	(text E)	15例外	
△デテール	(detail E)	2・7	

△デビスカップ	(Davis cup E)	10	
テレビジョン	(television E)	10	
【 ト 】			
ドア	(door E)	16	
トーキー	(talkie E)	7	
ドーナツ	(doughnut E)	7	
△ドッジボール	(dodge-ball E)	注	× ドッジボール と書かない。
ドライバー	(driver E)	10・16	
ドライブ	(drive E)	10	
ドライヤー	(drier E)	8例外・16	
トレーナー	(trainer E)	7・16	
トロフィー	(trophy E)	10	
【 ナ 】			
△ナツメグ	(nutmeg E)	9例外	
ナトリウム	(Natrium D)	17	
【 ニ 】			
ニュース バリュウ	(news value E)	2・10	
ニュー フェース	(new face E)	10	× ニューフェイス と書かない。
【 ネ 】			
ネーブル	(navel-[orange] E)	7・10	
ネーム バリュウ	(name value E)	7・10	
ネックレス	(necklace E)	7	
【 ノ 】			
ノスタルジア	(nostalgia E)	注8	× ノスタルジア と書かない。

【ハ】

パーティー	(party E)	11	
△バイアス	(bias[tape] E)	3	
バイオリン	(violin E)	10	
ハイヤー	(hire E)	8例外	
バター	(butter E)	16	
バッター	(batter E)	5例外・16	
バッテリー	(battery E)	5例外	
バニラ	(vanilla E)	10	
バラエティー	(variety E)	10	
パラフィン	(paraffin E)	10	
バリエーション	(variation E)	10・7	
バリュー	(value E)	10	
バルブ	(valve E)	10	
△バレー ボール	(volley-ball E)	10	
ハンディキャップ	(handicap E)	11	
ハンマ	(hammer E)	5例外・16	× × ハンマーと書 かない。

【ヒ】

ピアノ	(piano E)	8
ビーナス	(Venus E)	10
ビオラ	(viola E)	10
ビタミン	(Vitamin D)	10
ビニール	(vinyl E)	10
ヒューズ	(fuse E)	19
ビル(ディング)	(buil[ding] E)	11
ヒレ(肉)	(filet F>E)	10

【フ】

△ファースト	(first E)	10
ファイト	(fight E)	10
△ファイブ	(five E)	10
ファイル	(file E)	10
△ファインダー	(finder E)	10・16
ファインプレー	(fine-play E)	10・7
△ファウル	(foul E)	10
ファシズム	(fascism E)	10
ファッション	ショ (fashion show E)	10・7
ファン	(fan E)	10
フィアンセ	(fiancé F>E)	10・8
フィート	(feet E)	10
△フィールド	(field E)	10
△フィギュア	(figure E)	10
フィクション	(fiction E)	10
フィナーレ	(finale I)	10
△フィラメント	(filament E)	10
△フィルター	(filter E)	10・16
フィルム	(film E)	10
フェアプレー	(fair play E)	10・87
フェミニスト	(feminist E)	10
フェルト	(felt E)	10
△フェンシング	(fencing E)	10
フォーク	(fork E)	10
△フォーク	ダンス (folk-dance E)	10・7
△フォース	アウト (force out E)	10

フォーム	(form E)	10	
△フォワード	(forward E)	10	
プディング	(pudding E)	11	
プラスチック	(plastic E)	11	
プラットホーム	(platform E)	10	
プレーン ソーダ	(plain soda E)	7	
ブレイン トラスト	(brain trust E)	7・9	
プロデューサー	(producer E)	18例外16	
プロフィール	(profile E)	10	
【 へ 】			
ヘアピン	(hair-pin E)	8	
ペイ	(pay E)	7例外	
ペイント	(paint E)	7例外	
ベーカリー	(bakery E)	7	
ベーコン	(bacon E)	7	
ページ	(page E)	7・注	ペー ^x ヂと書かない。
△ページェント	(pageant E)	12	
ベーラム	(bay-rum E)	7	
△ベスト	(vest E)	10	
ベニヤ (板)	(veneer F>E)	8例外	
△ヘビー (級)	(heavy-weight E)	10	
ベランダ	(veranda E)	10	
ヘリウム	(Helium D)	17	
△ベルベット	(velvet E)	10	
ベルモット	(vermouth)	10	
△ベロア	(velours E)	10	
ベンチレーター	(ventilator E)	10・11 7・16	

△ペンテックス	(paintex E)	7例外	
【ホ】			
ボイル	(voile E)	10	
△ボーキサイト	(bauxite E)	15例外	
ポートレート	(portrait E)	7	
△ホーム スチール	(home steal E)	7・11	
△ボクシング	(boxing E)	15	
ボディ [×] ー	(body E)	11	ボデ [×] イ・ボデ [×] ーと書かない。
ボリュ [×] ーム	(volume F)	10	
ボルト	(volt E)	10	
ホルマリン	(Formalin D)	10	
【マ】			
マイクロホン	(microphone E)	10	
マキシマム	(maximum E)	15例外	
マスコミ [×] ュニケー [×] ション	(mass communication E)	5・7	
マフラー	(muffler E)	16	
【ミ】			
ミキサー	(mixer E)	15	
ミルクセーキ	(milk-shake E)	12・7・2	
【メ】			
メーカー	(maker E)	7・16	
メーキャップ	(make-up E)	2	
メーデー	(May-Day E)	7	

メイド	(maid E)	7	
△メイン イベント	(main event E)	7・2・10	
△メイン スタンド	(main stand E)	7	
メガホン	(megaphone E)	10	
メッセージ	(message E)	注	メッセー [×] ヂと書かない。
【モ】			
モダン	(modern E)		モダー [×] ンと書かない。
△モチーフ	(motif F>E)	11	
△モラトリアム	(moratorium E)	17例外	
【ユ】			
ユニホーム	(uniform E)	10	
【ヨ】			
ヨードホルム	(Jodoform D)	10	
【ラ】			
ライター	(lighter E)	16	
△ライト ウイング	(right wing E)	13	
ライバル	(rival E)	10	
ラジウム	(Radium D)	11・17	
△ラジエーター	(radiator E)	2・11・7	
ラジオ	(radio E)	16 2・11	ラヂ [×] オと書かない。
△ラスト ヘビー	(last heavy E)	10	
ラブレター	(love.letter E)	10・16	
ランデヴー	(rendez-vous F)	10	
【リ】			

リノリウム	(linoleum E)	17	
△リベット	(rivet E)	10	×
リューマチ(ス)	(rheumati(sm)E)	11	×
リュックサック	(Rucksack D)	2	ロイマチスと書かない。
【ル】			
ルクス	(Lux D)		× ルックスと書かない。
【レ】			
レイ	(lei E)	7例外	
△レイアウト	(layout E)	7例外	
レート	(rate E)	7	
レーヨン	(rayon F>E)	7	× レイヨンと書かない。
レインコート	(raincoat E)	7	× レインコートと書かない。
△レシーバー	(receiver E)	10	
レディーメイド	(ready-made E)	11・7	
レビュー	(revue F>E)	19	
△レフェリー	(referee E)	10	
レベル	(level E)	10	
【ロ】			
ロマンス	(romance E)		× ローマンスと書かない。
ロマンチック	(romantic E)	11	
ロンパース	(rompers E)	16	
【ワ】			
ワイヤ	(wire E)	8例外	

外来語の表記について

(関係資料)

第 20 回国語審議会総会議事録抄

(昭和 29 年 3 月 15 日)

〔出席者〕 土岐会長， 宮沢副会長

有 光， 池 上， 江 尻， 大 住， 大 塚， 楓 井，
金田一， 倉 石， 小 林， 颯 田， 佐 藤， 沢 登，
下 村， 田 口， 田 中， 千 種， 照 井， 時 枝，
殿 木， 中 島， 中 村， 長 沼， 波多野， 服 部，
原， 保 科， 堀 内， 前 田， 松 坂， 丸 野，
吉 田 各委員

外来語の表記について

颯田（術語部会長）

術語部会は昭和27年7月成立し、学術用語分科審議会から学術用語の表記について質問があり、表記部会と合同で審議のうえ、同年12月第17回総会で回答を決定した。その後は、表記部会と合同で、外来語表記の審議を続けて今日に至っている。

なお、この回答について、別紙学用分第7号「学術用語の表記について」によって、用例から「ダイアル」を削除してほしいとの依頼を受けたため、審議の結果、公然と「ダイヤル」を認めたこととはせず、用例から除くことを決定した次第である。

保科（表記部会長）

表記部会は、昭和27年10月以降、術語部会と合同で審議し、外来語表記の一般方針として、

- (1) その表記が国民一般に行われやすいことをたてまえとする。
- (2) その表記の社会における慣用の濃い薄いを合わせ考える。

(3) 表記が二様にわたり、まだ固定しない語が多いため、それらの語については一つ一つについて審議する。

を多数意見に基いて決定した。この結果、19項の原則を得たが、外来語の性質上、慣用の久しく行われて表記が固定したものは例外として認め、この原則を一つ一つの語に適用する際の具体例として「外来語用例集」をつけた。

この原案が御審議の結果、総会の承認を得れば、社会一般に普及するよう適当な処置をとられることを文部大臣に建議したいと考えている。

土岐会長 今の報告中、学用分第7号「学術用語の表記について」は、この取扱に御異議のあるかたは御発言願いたい。(発言なし)次に、学用分第9号「学術用語の制定について」の依頼は、学術用語分科審議会運営規則に「(国語審議会との連絡)第10条 審査部会は、その成果について、国語審議会と連絡するものとする。」とあり、こちらで検討するようになっているが、これについては適当な方法で検討して、学術用語分科審議会に返したいと考えている。これについて御異議があるか。(異議なし)では、学術用語分科審議会の依頼の取扱方については御承認を得たものとする。では、術語表記部会の建議にうつる。

(建 議 案 朗 読)

小林 細かい点について意見を述べる。

- 1 「外来語用例集」に原語の出自を示したらどうか。それについて英語・フランス語、英語からフランス語になるという説明の代りに、E, F, E→F等を付記してはどうか。
- 2 原語の複合したことばは、たとえば「オール・ウェーブ」のように、「・」(なかてん)を入れてはどうか。
- 3 「外来語を書くときに用いるかな ならびに符号の表」の体裁を、「標準語のために」の「五十音の発音」のようにしてはどうか。

4 原則12の「シエ」「ジエ」は根本的には認めるのかどうか。外国語の音の中には、日本人が一般に発音することが不可能なもの、可能なものなど段階があり、「シエ」「ジエ」は可能なものに属すると考えられるのに、これを「セ」「ゼ」と決めることは考慮を要する。部会では少数意見で破れたが、この点はやはり反対である。

土岐会長 総会の席上で、少数意見を取り上げ、逐一審議するのか。

保科 「・」については、現在、東京・京都というように同じ種類のことばをいくつか並べる場合に用いており、「アイス・キャンデー」と書いてよいかは相当に問題であると考ええる。次の部会に移して慎重に検討してもらいたい。外国語ふうの表記をとるか、国語ふうの表記をとるかについても、相当の混乱が予想されるので、次の部会に譲りたい。

土岐会長 こうした点を伏せて次の審議会に譲り、しかもこの趣旨を広く普及するとなると、建議とすることは困難であろう。原語の所属を事務的に書き込むのとは少し違うので、今までの御意見をどう取り扱ったらよいか。

小林 「・」のことは「よい」か「悪い」で決まる。このままでは、入れないのが原則と受け取られる。

吉田 まだ大きな問題を解決していないのだとすれば、建議は無理と考える。建議するとすれば、ここで解決しなければならない。

田口 原則13の「ウィ」「ウェ」「ウォ」を「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書くのは、これでは「ウ」と「オ」をはっきり発音しなければならないように考えられる。この点について、審議中異論があったことを申し上げるが、このまま発表してもさしつかえないかどうか。

大住 外語の日本語化したものをどう表わすかが問題で、原語の発音そのものをどう表わすかは当面の問題ではないと考える。

小林 外来語とは外国語の日本語化したものだとはい簡単に割り切れない。日本語の現実の発音を表記するだけでも問題がある。たとえば、実際は「フェルト」か「フェルト」か、「フィルム」か「ファイルム」か、また「ファイルム」を既成事実として認めると「フィルム」と書いたり、発音してはいけないのかなど問題がある。

颯田 この問題は部会で何度となく議論したもので、今ここでも繰り返しても結論は出ないと考える。

土岐会長 建議案として認めていいかどうか。

小林 無修正では困る。

土岐会長 修正するためには、さらに部会を設ける必要がある。

吉田 部会から提出された建議案を一つ一つ取り出して議論するのは、総会の性質上なすべきことではない。

丸野 吉田委員の発言に賛成する。

堀内 建議するのは控えるべきだ。ローマ字で表記する場合も、これでは困る。ローマ字では「ファイルム」とは書かない。

土岐会長 今の場合、外来語のかな書き表記とローマ字表記とを関係させて考えるべきではあるまい。

時枝 大住委員の発言にもあったが、外来音を書き表わす表記か、そうでないかを、はっきりさせなければならない。「ジェ」と「ゼ」のどちらをとるかは規範の問題である。

保科 発音が問題であるが、それによって表記が決まる。実際にはどちらが多く用いられているか判定に苦しむ場合が少なくない。「フェルト」「フェルト」などはこの例である。

吉田 書き方によって発音が固定するのが従来の実情ではないか。建議には反対する。

松坂 個々について議論はあろうが、教科書や新聞社などで、表記法がいろいろあるために困っているのが現状であるから、国語政策上、一応到達した成果を公表する責任がありはしないか。

堀内 「ウィ」「ウェ」「ウォ」は認めていないように思われるが、これでいいのか。「フィルム」としてはいけないのか。

大塚 「フィルム」は日本語として認めたもので、「フィルム」も認めたように記憶している。

土岐会長 御意見を伺っていると、このままで建議するのは困難であると思われるので、要望するというか報告されたということにし、次の国語審議会でもう一度やってもらうことにしてはどうか。

金田一 このままで建議してもいいと思う。

颯田 これを中間報告にとどめ、さらに検討したものを建議要望すればよい。

保科 総会の意見として、そう決まればやむをえない。

小林 新聞社その他で強い要望があるため、不完全ではあろうが、建議にしてほしい。

中島 建議にしなくとも普及の方法をよく考えればいいと思う。材料としてはよくできていると考えられる。

吉田 教科書の検定規準になるかどうか。

土岐会長 基準として取り上げるかどうかはわからない。

中島 昔は「フィ」を「ファイ」「ヒ」と書いた。それが慣用となって残っているが、現在の形で押えると、将来外来語がふえた場合に困ることが起りはしないか。一応現在のところでは、これでよいものとする。

田口 外来語の表記について原則をたてたが、「フィ」と「ファイ」「シェ」と「セ」など発音する際の難易はどうであるか。「ウイーク」「ウオーム」などは現在の語感意識について二重母音を取り入れているが、アナウンサーなどの実際にあたってみると、日本語の二つの読み方に混乱を起している。これが将来の語感意識に混濁をもたらすと考えられる。

以上について部会で数回発言しておるが、常に少数意見として

否決されているのは不満である。また、いつもくり返して申し上げていることだが、こうした事実を明らかにするためにも、もっと記録をとっていただきたい。

颯田 これはアイディアの方向の相違で、どう日本語をリードしていくかと実際の現象をどう見るのかの対立である。部会では後者が多数であった。

吉田 まだ固定していない発音までも固定させようとすることは避けたい。その意味でこの案は承認しがたい。

土岐会長 建議はしないとして、ここでさしつかえないものと認めることさえ困難であるのか。

小林 標準語部会では「エイ」と書いて「エー」と発音することを認めている。字のとおり発音するのではない。

金田一 母音脱落にしても、日本語の発音を複雑にしたい気持がある。

小林 リードではなく、これからの方向をつけておきたい。今までは「ヒ」と表記していても、これからは「フィ」であるようにしたいと考える。

中島 現実に使われているものをとったという態度で、一応到達した成果を発表してはどうか。決定の形でなく中間発表とし、意見を求めるほうがいいと考える。

土岐会長 では、建議案にすることは無理だと考えていいか。（異議なし）部会で到達した成果の報告を受け、総会がそれを聞いたということにする。

時枝 外来語表記の一つのよりどころを提供したと考えていいのではないか。「基準」は強すぎる。

中島 「要望」は強い。

土岐会長 「望ましい」ではどうか。

宮沢副会長 中間報告であると考えれば、実質的には総会自身態度を示さなくともよい。

佐藤 将来のことは切り離して考え、現在行われている外来語の各種の表記について、基準となる書き方を示すことは必要だと考える。

土岐会長 報告文の原案については、書きなおして御意見を伺いたい。

（「外来語の表記について」朗読）

御異議がありますか。（異議なし）では、この報告の審議は終わったこととする。

外来語の表記について

国語審議会

国語審議会は、外来語について、その書き表わし方が様々になっている現状にかんがみ、その基準を定める必要を認めて、術語・表記合同部会で審議してきた。昭和29年3月第20回総会で、別紙のとおり部会における審議の結果が報告された。

については、この趣意がひろく社会に普及し、一般に実行されることが望ましい。

国語審議会名簿

(昭和27. 4 ~ 29. 4)

委員

- | | | |
|-------|-------|--------------------------------------|
| (会長) | 土岐善磨 | 都立日比谷図書館長，国立国語研究所評議員，文学博士 |
| (副会長) | 宮沢俊義 | 東京大学法学部長，法学博士 |
| | 麻生磯次 | 東京大学教授，文学博士 |
| | 有光次郎 | 秀英出版社長 |
| | 安藤正次 | 東洋大学教授，国立国語研究所評議員会長（昭和27. 11. 18 死去） |
| | 池上退蔵 | 朝日新聞社記事審査部付 |
| | 伊藤忠兵衛 | 東洋パルプ会長，国立国語研究所評議員 |
| | 上野陽一 | 産業能率短期大学長 |
| | 江尻進 | 日本新聞協会編集部長 |
| | 遠藤嘉基 | 京都大学教授，文学博士 |
| | 大住達雄 | 三菱倉庫社長 |
| | 大塚明郎 | 東京教育大学教授，理学博士 |
| | 緒方富雄 | 東京大学教授，医学博士 |
| | 折口信夫 | 慶応義塾大学，国学院大学教授，文学博士（昭和28. 9. 8 死去） |
| | 楓井金之助 | 東京新聞社校閲部長 |
| | 甲斐政治 | 日本民間放送連盟事務局長（昭和27. 10. 1 退任） |
| | 龜井勝一郎 | 評論家，日本文芸家協会理事（昭和27. 6. 3 就任） |
| | 河竹繁俊 | 早稲田大学教授，文学博士 |
| | 北浜清一 | 香川県坂出市西庄小学校長，日教組教育文化部長 |

- | | |
|---------|-------------------------------------|
| 木 下 一 雄 | 東京学芸大学長，文学博士 |
| 金田一 京 助 | 国学院大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士 |
| 倉 石 武四郎 | 東京大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士 |
| 桑 原 武 夫 | 京都大学教授，国立国語研究所評議員 |
| 小 林 英 夫 | 東京工業大学兼名古屋大学教授，文学博士 |
| 酒 井 三 郎 | 日本民間放送連盟事務局長（昭和27. 11. 1～29. 4. 29） |
| 颯 田 琴 次 | 東京芸術大学教授，国立国語研究所評議員，医学博士 |
| 佐 藤 為治郎 | 読売新聞社校閲部長 |
| 佐 野 利 器 | 東京市政調査会副会長，工学博士 |
| 沢 登 哲 一 | 都立小石川高等学校長，国立国語研究所評議員 |
| 渋 沢 秀 雄 | 著作家 |
| 下 村 宏 | 法学博士 |
| 田 口 柳三郎 | 日本彩映研究所長 |
| 竹 田 復 | 東洋大学教授，文学博士 |
| 千 種 達 夫 | 東京地方裁判所判事 |
| 千 葉 勉 | 上智大学教授（昭和28.1.30 退任） |
| 都 留 重 人 | 一橋大学教授 |
| 照 井 猪一郎 | 三鷹市明星学園中学校長兼小学校長 |
| 時 枝 誠 記 | 東京大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士 |
| 殿 木 圭 一 | 共同通信社編集局次長 |
| 中 島 健 蔵 | 東京大学講師，国立国語研究所評議員 |
| 中 村 茂 | N・H・K放送文化研究所長 |
| 長 沼 直 兄 | 言語文化研究所理事長 |

- 波多野 完 治 お茶の水女子大学教授，国立国語研究所評議員，文学博士
- 服 部 静 夫 東京大学教授，理学博士
- 服 部 四 郎 東京大学教授，文学博士（昭和27. 9. 1. ~27. 11. 23. ）
- 原 富 男 東京教育大学講師，文学博士
- 舟 橋 聖 一 作家，日本文芸家協会理事
- 保 科 孝 一 東京文理科大学名誉教授
- 堀 内 庸 村 日本ローマ字会理事
- 前 田 賢 次 東京商工会議所業務部長
- 松 坂 忠 則 カナモジカイ理事長，国立国語研究所評議員
- 丸 野 不二男 毎日新聞社校閲部長
- 吉 川 幸次郎 京都大学教授，文学博士
- 吉田 甲子太郎 明治大学教授
- 劍 木 亨 弘 内閣官房副長官（昭和26. 6. 21~27. 8. 13）
- 江 口 見登留 （昭和27，9. 13 就任）
- 佐 藤 達 夫 法務府法制意見長官（昭和24. 8. 31~27. 8. 1）
- 林 修 三 内閣法制局次長（昭和27. 11. 1. 就任）
- 日 高 第四郎 文部事務次官（昭和26. 3. 22~27. 8. 14）
- 劍 木 亨 弘 文部事務次官（昭和27. 8. 15~28. 2. 27）
- 西 崎 恵 文部事務次官（昭和28. 2. 27~28. 8. 28）
- 田 中 義 男 文部事務次官（昭和28. 8. 28就任）

< 表 記 部 会 >

[部会長] 保 科 孝 一

[部会員] 池 上 退 蔵 江 尻 進 遠 藤 嘉 基
 楓 井 金之助 金田一 京 助 倉 石 武四郎
 佐 藤 為治郎 時 枝 誠 記 殿 木 圭 一
 波多野 完 治 松 坂 忠 則 丸 野 不 二 男

< 術 語 部 会 >

[部会長] 颯 田 琴 次

[部会員] 有 光 次 郎 大 塚 明 郎 緒 方 富 雄
 楓 井 金之助 金田一 京 助 倉 石 武四郎
 小 林 英 夫 佐 野 利 器 田 口 柳 三 郎
 都 留 重 人 時 枝 誠 記 殿 木 圭 一
 中 村 茂 服 部 静 夫

〔付録〕

外国の地名・人名の書き方

(案)

昭和21年3月

文 部 省

本省で編修または作成する各種の教科書・文書などの国語の表記法を統一し、その基準を示すために、

1. 送りがなのつけ方 (案)
2. くぎり符号の使い方〔句読法〕 (案)
3. くりかえし符号の使い方〔おどり字法〕 (案)
4. 外国の地名・人名の書き方 (案)

の四篇を印刷に附した。この案はその一つである。

諸官庁をはじめ一般社会の用字上の参考ともなれば幸である。

(文部省教科書局調査課国語調査室)

(注意) 縦書きを横書きにし、かなづかいを現代かなづかいに改めた。なお、「外来語の表記」とのちがいを注記した。

外国の地名・人名の書き方に関する方針

1. 外国の地名・人名（中華民国の地名・人名は除く）は，原則として片かなを用いて書き，別表「外国の地名・人名を書くときに用いるかな並びに符号の表」の範囲内で書く。
2. 外国の地名・人名は，なるべくその国の称え方によって書く。
3. 外国の地名・人名は，慣用の固定したものは，それに従って書く。
4. 外国の地名・人名は，発音しやすいように書く。

外国の地名・人名を書くときに用いるかな 並びに符号の表

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ		ユ		ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ				
ン				
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ダ			デ	ド
バ	ビ	ブ	ベ	ボ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
キ ^ャ		キュ		キョ
シ ^ャ		シュ		ショ
チ ^ャ		チュ		チョ
ニ ^ャ		ニュ		ニョ
ヒ ^ャ		ヒュ		ヒョ
ミ ^ャ		ミュ		ミョ
リ ^ャ		リュ		リョ

ギャ
ジャ
ビャ
ピャ

ギョ
ジュ
ビョ
ピョ

ギョ
ジュ
ビョ
ピョ

ウイ

イエ
ウエ

ウオ

ウユ

* クワ

シェ
チェ
ツエ

ツァ

ツォ

テイ

トゥ

ファ

ファイ

フェ

フォ

フユ

* グワ

ジェ

デイ

デュ

ドゥ

ヴァ

ヴァイ

ヴ

ヴェ

ヴォ

ッ (促音符号)

ー (長音符号)

* 「外来記表記の原則」では「クァ」「グァ」としている。

備 考

外国の地名・人名の称え方・書き方を整理統一するには、称え方は原則としてその国の称え方によるのがよいことは言うまでもない。しかし、すでに慣用の久しいものは、これを認めて行かなければならない。ただ、それをどの程度まで認めるかということに考慮の余地がある。「イギリス」「ギリシア」「デンマルク」「レントゲン」などのごときは、原語、原音を離れたものではあるが、すでに広く用い慣れているので、この称え方を認める。「レントゲン」のごときは、同時に原語、原音による「レンチェン」という称え方が一部に行われているが、慣用の広い「レントゲン」の方を取る。

原音に近く書き表わすとしても、それに用いるかなは、一般の国民に発音しやすいものにとどめる。また、「イ」「エ」「オ」、「ジ」「ズ」と同じ音の「キ」「エ」「ヨ」、「ヂ」「ヅ」などのかなは用いることをやめ、精密に書き表わすときには、「ウィ」「ウェ」「ウォ」、「ディ」「ドゥ」とする。「ヴ」は従来かなり広く用いているので、必要に応じて採用する。

撥音を書き表わすとき、「オリムポス」「ゼムメリング」などのごとく、「ム」を用いる書き方も行われているがこの案では「ム」は用いないで、「ン」を用いる。

長音を書き表わすとき、従来「ヨーロッパ」「ヨオロッパ」、「ソシユール」「ソシユウル」などが行われているが、最も普通に広く行われている長音符号「ー」を採用することとする。したがって、「ガレリウス」「コメニウス」などと書けば、「リウ」「ニウ」は、分けて発音する。

促音を書き表わすときは、慣用に従って右側下に「ッ」を書くこととし、「ツ」と区別する。

この書き方は、漢字平がな交り文における書き方である。

この書き方によった外国の地名・人名の例

(アイウエオ順)

アイゼナハ	Eisenach	「アイゼナッハ」とは書かない。 ドイツ語の st の s は、「ス」と書く。 ギリシア語・ラテン語などの ti・tu は「チ」「ツ」と書く。	
アインスタイン	Einstein		
アウグスチヌス	Augustinus		
アクチウム	Actium	語末の (i)a は「ア」と書き、(y)a は「ヤ」と書く。 ギリシア語の ei は、「エイ」と書かないで「イ」と書く。 ギリシア語・ラテン語などの長音は書き表わさない。したがって、「アリステレーレス」などとは書かない。 慣用による。	
アグリゲンツム	Agrigentum		
ア ジ ア	Asia		
アリスチデス	Aristeides		
アリストテレス	Aristoteles		
アルゼンチン	Argentine		
アルヘンティーナ	Argentina		
アレクサンドロフスク	Alexandrovsk		スラヴ語などの vsk・vski などの v は、「フ」と書く。
アンチオキア	Antiochia		
イ エ ス	Jesus		「イタリヤ」とは書かない。
イ エ ー ツ	Yeats		
イェーリング	Jhering		
イ タ リ ア	Italia		
イ ブ セ ン	Ibsen		
ヴァチカン	Vatican		
ヴィクトリア	Victoria		
ウィクリフ	Wycliffe		
ウィッテンベルク	Wittenberg	ドイツ語の語末の berg・burg の g は、「ク」と書く。	

ウ イ ル ソ ン
ウ インデルバント
ヴ ェ ル サ イ ユ
ウ ェ ル ズ
ウ ェ ー ル ス
ウ ェ ル フ リ ン
ヴ ォ ル テ ー ル
ヴ ォ ル ム ス
ウ ェ ル テ ン ベ ル ク
ウ ル グ ヲ イ

ウ ル フ
ヴ ン ト

エ ウ ク リ デ ス
エ ク ア ド ル
エ シ ソ ン
エ チ オ ピ ア
エ ニ セ イ
オ ー ス ト ラ リ ア
オ リ ン ポ ス

オ ロ ヤ

カ イ ザ ー リ ン グ
カ ヴ ェ ー ニ ャ ッ ク
カ ト マ ン ド ウ ー
カ ー ラ イ ル

ガ レ リ ウ ス

Wilson
Windelband
Versailles
Wells
Wales
Wölfflin
Voltaire
Worms
Württemberg
Uruguay

Wulff
Wundt

Eukleides
Ecuador
Edison
Ethiopia
Yenisei
Australia
Olympos
Oroya

Kayserling
Cavaignac
Katmandu
Carlyle

Galerius

ドイツ語の語末の d は、「ト」と書く。

ドイツ語の語頭の w は、「ワ」「ウィ」「ウ」「ウェ」「ウォ」などのごとく書く。

ギリシア語の ei は、「エイ」と書かないで、「イ」と書く。

「オリムポス」とは書かない。
語末の (y)a は「ヤ」と書く。

ドイツ語の語末の ing の g は、「グ」と書く。

ギリシア語・ラテン語などの (i)us は、「ウス」と書いて、長音符号を用いない。

ギリシア	Greece
キンバリー	Kimberley
Grillparzer	Grillparzer
グレイ	Gray
グレイ	Grey
クッケルナク	Quaeckernack
ケーザル	Caesar
ケーニヒスベルク	Königsberg
ケニヤ	Kenya
ケンブリッジ	Cambridge
コメニウス	Comenius
ゴールズワージー	Galsworthy
ゴンサルボ	Gonsalvo
サッカレー	Thackeray
ザラツストラ	Zarathustra
サルジニア	Sardinia
シエイェース	Sieyès
シェークスピア	Shakespeare
シエラ・ネバダ山脈	Sierra Nevada
シェリー	Shelley
ジェンナー	Jennar
シャルルロア	Charleroi
シュニッツラー	Schnitzler
ジュネーヴ	Genève
シヨ	Shaw

英語の ley は、「リー」と書く。
ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。
英語の ray・rey は、「レー」と書く。

ギリシア語・ラテン語などの長音は書き表わさないが、「ケーザル」「ローマ」は、慣用により長音に書く。
ドイツ語の語末の berg・burg の g は、「ク」と書く。

イスパニア語などの v には、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用いる。
英国の ray・rey は、「レー」と書く。

イスパニア語などの v には「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用いる。

フランス語の oi は、「オー」と書く。

ショーペンハウアー	Schopenhauer
スタンリー	Stanley
ストラウス	Strauss
セルバンテス	Cervantes
ゼンメリング	Sömmering
ソアソン	Soissons
ソクラテス	Sokrates
ダーウィン	Darwin
タキツス	Tacitus
ダンチヒ	Danzig
タンネンベルク	Tannenberg
チェンバレン	Chamberlain
チャンネル諸島	Channel Islands
チュードル	Tudor
チリ	Chile
ツァポリア	Zapolya
ツェッペリン	Zeppelin
ツォルンドルフ	Zorndorf
ツルゲニエフ	Turgenieff
ディケンズ	Dickens
ティチアーノ	Tiziano
テオドゥル越	Théodule Pass
デューイ	Dewey
デュプレックス	Dupleix

ドイツ語の語末の er は、「アー」と書く。

英語の ley は、「リー」と書く。

ドイツ語の st の s は、「ス」と書く。

イスパニア語などの v には、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」を用いる。

「ゼムメリング」とは書かない。

フランス語の oi は、「オア」と書く。

「ソークラテース」などとは書かない。

nn・mm などには、慣用により、「ン」を加えることがある。

ti・tu・di・du などは、精密には「ティ」「トゥ」「ディ」「ドゥ」と書き、chi・zi などは、「チ」と書く。

トゥーニス	Theunis
ドルトムント	Dortmund
ナハチガル	Nachtigal
ニカラグワ	Nicaragua
ニューヨーク	New York
ハックスリー	Huxley
バセドウ	Basedow
ハーディー	Hardy
バッハ	Bach
パラグワイ	Paraguay
ハンブルク	Hamburg
ビザンチウム	Byzantium
ビュッフォン	Buffon
ヒューム	Hume
ファーブル	Fabre
ファン・アイク	Van Eyck
フィウメ	Fiume
フィリピン	Philippine
フィルヒョー	Virchow
フェービアン	Fabian
フューネン	Fünen
プラトン	platon
ペテロ	Petros
ペートル大帝	Pëtr
ヘラクリトス	Herakleitos
ヘルダー	Herder
ポアンカレ	Poincaré

ドイツ語の語末のdは、「ト」と書く。「ナッハチガル」とは書かない。

「ホルバハ」「ライヘンバハ」は、「バッハ」と書かない。

「プラトーン」などとは書かない。

ドイツ語の語末のerは、「アー」と書く。

フランス語のoiは「オア」と書く。

ホイートストーン	Wheatstons
ホイットニー	Whitney
ホイットマン	Whitman
ホーエンツォレルン	Hohenzollern
ホラチウス	Horatius
ホルバハ	Holbach
ボリビア	Bolivia
マホメット	Mahomet
マルセーユ	Marseille
マレー	Murray
ムリリョ	Murillo
モスクワ	Moskva
ライヘンバハ	Reichenbach
ラヴォアジエー	Lavoisier
ユスチニアヌス	Justinianus
ルクセンブルク	Luxemburg
ルーズベルト	Roosevelt
ルター	Luther
ルノール	Renoir
ロシア	Russia
ロズ	Lodz
ローマ	Roma
ロマノフスキー	Romanovski
ワイマール	Weimar
ワーズワース	Wordsworth

英語の whea・whi など
は、「ホイ」のごとく書く。

「ホルバハ」とは書か
ない。

イスパニア語などの v に
は、「バ」「ビ」「ブ」「ベ」
「ボ」を用いる。

英語の ray・rey は、「レ
ー」と書く。

「ライヘンバハ」とは
書かない。

ドイツ語の語末の er は
「アー」と書く。

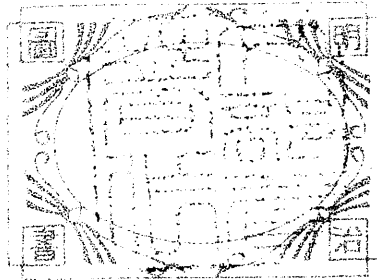
慣用により「ローマ」と
長音に書く。

この案の作成にあたっては、関係諸官庁・諸団体及び学界、
特に市河三喜・今井登志喜・内田寛一・亀井高孝・辻村太郎・
松本信広・村川堅固・山中謙二（アイウエオ順）の諸氏の御協
力をわずらわした。

国語シリーズ 27

外 来 語 の 表 記

資 料 集



MEJ 4070

昭和30年3月20日印刷 昭和30年3月30日発行

著 作 権 有
所

文 部 省

東京都中央区入船町3の3

発 行 者

藤 原 政 雄

東京都板橋区志村町1の1

印 刷 者

鈴 木 森 吉

(日興印刷株式会社)

東京都中央区入船町3丁目3番地

発 行 所

明 治 図 書 出 版 株 式 会 社

電話築地(55)4970 振替東京 151318

定 価 17 円